

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

鉄道が南北に分断

甲府市は山梨県の県庁所在地で人口約19万人の都市である。武田信玄公の父、信虎公が城下町を整備したことに始まり、19年には甲府開府500年という歴史的な節目を迎える。

甲府の中心市街地は甲府城を壊し、縮小させ、その跡地を活用し発展してきた。江戸時代は、城とその周辺の城下であったが、明治にな

って城を南北に分断する形で鉄道が整備されると、堀を埋めて通りや官庁街ができ、周辺には商業地や住宅地が形成されていった。

戦争でいったんは焼け野原になったものの、戦後復興を遂げ、県の政治・経済・交通・教育・文化の中心都市として発展。中でも中心市街地は

行政、金融機関、企業をはじめ多種多様な商店が集積し、人々の生活や交流の拠点として栄えてきた。しかし、居住人口の減少や車社会の進展に伴う都市構造の変化、大規模集客施設の郊外立地などによって空き店舗、空き地が増えるなど空洞化が進み、中心市街地の賑わいが減り、減少の一途をたどっている。

山梨県と甲府市では12年3月、「甲府駅南口周辺地域修景計画」を策定した。この計画に基づき「風格のある歴史景観と都市景観が調和した居

城周辺の区域を対象に、修景計画の取り組みを具現化するために、「甲府城周辺地域活性化基本計画」を策定した。

この計画では、城周辺の公共施設跡地等を活用し、城がまちのシンボルとなり、城を中心にまちと人、人と人がつながり、様々な交流を通じて賑わいを取り戻し、新たな文化を創造するまちづくりを目指す。

整備方針は、①県庁敷地と一体となった開放的な広場の

「小江戸」交流施設も再現

開府500年、その歴史と文化生かす

心地がよい、賑わいのある空間づくり」を目指して様々な取り組みを進めている。これまでに県庁防災新館、市新庁舎の建設、県庁敷地のオープン化、甲府駅南口駅前広場の改修工事が完了し、現在は平和通りのリニューアルが進められている。

県内外の声を収集

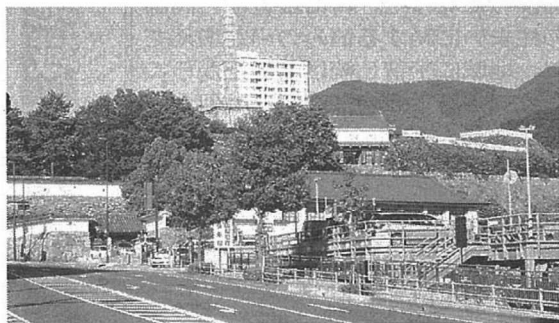
策定にあたって実施されたアンケートでは、「どのような空間づくりを進めると良いか」の問いに県内・県外在住者ともに「歴史・文化を感じられる」「気持ちよく歩ける」

「甲府の歴史や文化にふれることができる」「食事、買い物、場として楽しめる」空間と施設が望まれている。

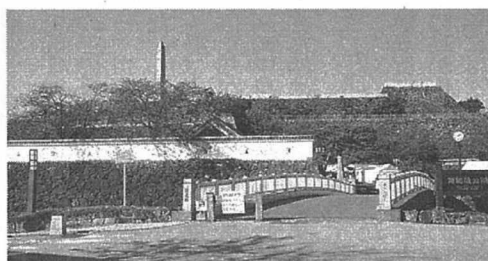
16年6月、山梨県と甲府市は甲府

県と甲府市は甲府

山梨県甲府市・城をシンボルにまちづくり



④甲府城周辺 ⑤甲府城正面入り口付近



甲府城天主台から見た中心市街地